

278回サロン9条例会報告 2016年7月19日 参加者12名

テーマ「どうでしたか参院選挙、みんなでわいわいがやがや」

7月10日に行われた参議院選挙後、はじめてのサロンでした。改憲勢力が三分の二を超えるという残念な結果となってしまいましたが、市民+野党共闘という新しい選挙の形を経験した感想や、これからの運動のあり方など、活発に意見が交わされました。

まず、司会の吉田千秋さんが中日・朝日新聞の選挙データを次のようにまとめました。

- ・市民+野党共闘という歴史的に新しい動きは、市民と政党が結んだ新しい民主主義。
- ・若者は、投票率が平均より低かった。しかし前は20代が30%台であったことを思えば、少し上げることができたことになる。でももっと上げる必要がある。
- ・国民の中に主権者意識が弱い。
- ・改憲隠しもあったが、若者も景気・雇用・福祉が主な判断材料で憲法は3番目。憲法のことだけ言うのではなく、身近な足元の問題と結びつけた運動が大切だった。TPPや原発問題が深刻な東北では野党共闘がほとんど勝利した。
- ・選挙民が、投票についての基本的な知識をよく知らないという問題もあった。例えば比例区と選挙区の違い、改憲のしくみなど。

そのあと、参加者が自由に意見を述べました。

- ・電話作戦に積極的に参加したが、「そういえば選挙でしたね」「主人に伝えます」のように選挙を他人事のように感じている人がほとんどだった。身近な問題（特にお金）と具体的に結びつけることの必要性を痛感した。
- ・「ピースハートぎふ」の中で各党が交わるのに時間がかかった。7月2日の決起集会での小見山さんの演説は素晴らしかったし、集会の雰囲気もとてもよかった。あれがもっと前だったらよかった。
- ・今回ははじめの一步。だからあまりがっかりしていなくて、今後に希望をもっている。
- ・「候補者磨き」で候補者も市民も成長していくという運動の形が大切
- ・「小見山さんを応援したい」という雰囲気がもっと早く必要だった。候補者磨きという経験が今までなかった。
- ・市民+野党の「市民」が大切。
- ・高知新聞によると市民の80%が「三分の二」の意味を知らない。その意味を主権者として一人ひとりが知る必要がある。そのために地道な運動が大切。
- ・改憲という言葉が知れ渡っていない。「九条の会」がこの10年何をやってきたのかと愕然とした。改憲は投票した人の半分・・・つまり25%の得票で出来てしまう。
- ・知らしめる手段として今のメディアでは無理。

- ・映画「不思議な国の憲法」を自主上映した。いろんな場で上映会がやられている。これからも是非あちこちでやってほしい。
- ・96条の勉強、今までも必要だったし、これからも必要。
- ・主権者教育は、小さいときから必要。教育の中立性とは何か「期待される人間像」ということで69通達が政府から出された頃から、どんどん生徒の中に自主性を育てる教育が後退してきた。
- ・母親運動では、60年以上前から各県で話し合い、要望をまとめて県側に働きかける運動を続けている。これが主権者としての活動だ。あらゆるところでこんな動きを作っていく必要がある。
- ・新潟の長岡市では、平和教育が盛んで戦後ずっと児童・生徒が広島のことを劇にするという取り組みが行われている。新潟では野党共闘が勝利した。岐阜でも聖徳学園高校で教師群が頑張って平和教育を行っている。
- ・国民投票法はひどい法律で、一度でもお試し改憲をやられると、どんどん歯止めがなくなる。改憲の中身と国民投票法のひどさをセットで広めていく必要。
- ・2018年に国民投票実施の動きがある。憲法審査会では6項目にしばっていて、その中に緊急事態条項も入っている。特に「大災害後、国会議員の任期を延長する」という項目には乗ってしまいそうであぶない。
- ・日本会議は「家族」「緊急事態条項」の二つ以外は言わないというシナリオで一貫して動いている。護憲派もそういった固いシナリオが必要。
- ・「改憲は必要ない」ということで一致して闘う必要。
- ・緊急事態条項の災害時に関して、「そんなものを作らなくても災害基本法がある」ということで世論の盛り上がりがあれば96条のときのように引っ込める可能性がある。
- ・自民党支持者の中にも改憲には反対の人がある。そこに依拠した運動が必要。
- ・緊急事態条項を出させない運動が必要。
- ・南スーダンのジュバには北海道から353人の自衛隊員が派遣されている。9条に関して、改憲派と議論のせめぎあいが出てくるかもしれない。

このように、議論が多岐にわたり、活発にかわされました。もう一度私たちが自民党改憲案、国民投票法について基本的なことを「わかり直して」いくことが必要であり、いろんな方法で、いろんな場所で、広めていこうということを再確認して、散会しました。

今回は、新しい参加者が、新しい切り口で発言され、とても新鮮でした。

(座馬 記)